

令和7年度学校教育自己診断の結果と分析

【生徒全体】 昨年度と比較すると、20項目中17項目において、肯定的評価の割合が5Pt以内の変動に収まっており、全体として学校生活の満足度は概ね維持していると言える。特に「先生は協力して生徒指導に当たっている。」「先生はいじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。」「ホームルームや授業などで将来の進路や生き方について考える機会がある。」など、8項目で肯定的評価の割合が9割を超えており、学校生活には概ね満足していると判断できる。「学校は生徒1人1台端末(Chrome book)を効果的に活用している。」についても、昨年度より肯定的評価の割合が3.9Pt増加し、95%に達した。これは、授業者の工夫により、1人1台端末を活用した授業が浸透してきた結果であるといえる。一方、「他の先生が授業を見学に来ることがある。」では、肯定的評価の割合が5.4Pt減少し、全項目の中で最も減少幅が大きかった。見学するクラスに偏りが出ている可能性がある。

【1年生】 1年生は、他学年に比べて、全体的に肯定的評価の割合が高く、9項目において90%を上回っている。「学校は進路についての情報をよく知らせてくれる。」や、「ホームルームや授業などで将来の進路や生き方について考える機会がある。」等、4項目について肯定的評価の割合が昨年度より大幅に増加した。この動きを学校全体に広げていきたい。

【2年生】 「他の先生が授業を見学に来ることがある。」については前年から17.7Pt減少している。教員の自己診断での、「学校内で他の教員の授業を見学する機会がよくある。」における肯定的評価の割合は89.6%で、昨年度から8.1Pt減少しており、見学する教員や授業に偏りが出ている可能性がある。教科や科目にとらわれず、幅広く授業を見学するようにしたい。

【3年生】 3年生は、「先生はいじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。」や「外国籍性と生徒との交流が自然に行われている。」「この学校では、図書館が生徒に活用されている」の項目における肯定的評価の割合が、昨年度より大きく増加した。一方で「生徒会活動に関心を持ち、体育祭や文化祭等の生徒会行事に積極的に参加している」の項目は昨年度を大きく下回った。生徒の主体的な参加が実感できる行事の在り方を考える必要がある。

【保護者】 保護者は、「学校は家庭への連絡や意思疎通を積極的に行っている。」や「学校は、教育情報について家庭への提供の努力をしている。」「学校はホームページに必要な情報を載せている。」の項目で、肯定的評価の割合が増加に転じた。パンフレットのリニューアルや学校ホームページにおけるブログの積極的な更新、SNSによる情報発信等の効果が出始めてきていると考えられる。

【教職員】 「学校生活上のマナーについての指導が十分になされていると思われる」の項目では、肯定的評価の割合が9.9Pt増加しており、生活指導の体制が整ってきたと言える。また、「本校の教育活動について、教職員間で日常的によく話し合っている。」「指導内容について、他の教科と話し合う機会がよくある。」「人権尊重に関する様々な課題や指導方法について、全教職員で話し合っている。」等、教職員間のコミュニケーションに関する項目においても、肯定的評価の割合が昨年度より増加しており、授業改善推進委員会等の取組みが一定の成果をあげていると考えられる。「本校の職場においては、教職員の服務規律への自覚が高い。」については、昨年度肯定的評価の割合を大きく下げたが、今年度9.4Pt回復した。今年度、服務規律についての教員研修を実施したことが、回復の要因の1つであろう。一方で、「学校運営に、教職員の意見が反映されている」や「職員会議をはじめ各種会議が、教職員間の意思疎通や意見交換の場として有効に機能している」では、肯定的評価の割合が減少した。会議等の効率化と、意見交換の場としての役割との、適切なバランスが求められる。